



東地中海地域ニュース

シリア：シャラ副大統領の発言

(8月15日付現地紙)

8月14日、シャラ副大統領が「シリア記者連盟総会」で行った演説(要旨)

1. 中東和平

(1) シリア・イスラエル戦争の可能性

- (イ) シリアは戦争を求めてはいないし、イスラエルもこのことをよく知っている。だが、シリアは如何なる攻撃にも防衛できるよう常に準備しておかねばならない。何故なら、シリアは、イスラエルが昨年レバノン戦争のように、戦争と言う口実を求めていると知っているからである。
- (ロ) 和平はマドリード会議以後、シリアの戦略的選択であり、シリアがイスラエルに対し戦争を仕掛けることはない。但し、和平がシリアの戦略的選択であることは、他の選択もあることを意味している。シリア指導者は、他の選択肢を過去、現在とも排除したことはない。
- (ハ) シリア国民も戦争を求めてはいない。しかし、降伏や領土の放棄は絶対に受け入れない。シリア国民は、1967年7月4日の国境線までのゴラン高原被占領地全土を回復する和平交渉を求めている。

(2) 米国が提唱する中東和平会議について

ブッシュ米政権が提唱した「中東和平会議」は、その目的、参加者、成功の保証が不明確である。従って、シリアは同会議に反対の立場を取っている。シリアは、たとえ招待されても、その目的や内容を知らずには同会議に参加することはない。

2. イラク情勢

- (1) 来週に予定されているマリーキー・イラク首相のシリア訪問時には、同首相がイラクの立場について可能な限り真摯且つ率直に話すことが求められる。これにより、中東の包括的利益、米軍の完全撤退に向けたタイムテーブル策定、シリア・イラク関係強化等が実現する。
- (2) イラク情勢の悪化で、シリアは多数のイラク難民を引き受けているが、この責任は米国及びイラク政府にある。この点についても、マリーキー首相と話し合う予定である。

3. サウジ関係

- (1) サウジの中東地域での役割は、アラブ諸国、イスラム諸国の連帯において重要である。しかし残念ながら、現在、サウジの政治的役割は半麻痺状態にある。理由は分からないが、現実の評価としてサウジの役割が停滞している。このサウジの役割の半麻痺状態に

ついて、二つの例が挙げられる。

- (イ) 一つは、マッカ合意の前にシリア指導部、PA 大統領、ハマス政治局長等が非公開で会談し、対パレスチナ制裁の解除、PA・PLC 高官の釈放等に向けた努力をサウジかエジプトで行うと合意したものの、マッカ合意で制裁解除と釈放が実現しなかったことである。米国がサウジに耳を傾けなかったか、サウジがマッカ合意をフォロー出来る状況になかったのであろう。
- (ロ) もう一つの例は、サウジが先般のダマスカスでのイラク周辺国治安会議 WG 会合に参加しなかったことである。もしもサウジが同会合について何か留意点があったとしても、在シリア・サウジ大使館員だけでも出席させることは出来た。欠席は意図的である。
- (2) シリアはサウジと戦略的に強力且つ際立った同胞関係の構築を求めている。しかし、両国の意思がなければ、かかる関係は構築できない。現在の好ましくない関係は、シリアによるものではない。

4. イラン関係

- (1) 米国はシリア・イランを「悪の枢軸」と言うが、シリア・イラン両国はお互いが枢軸を組んでいるとは考えていない。シリアはアラブ諸国間の連帯、イスラム諸国間の結束を求めているだけに過ぎない。
- (2) シリア・イラン関係は、統一した見解に基づく戦略的なものであり、盲目的ではない。例えば、イラン側はイラクの独立、治安維持を求め、他方シリア側は、イラクの国民的結束、アラブ民族主義の維持を望んでいる。この意味で、シリア・イランは、イラクが危機と占領から脱出する支援を行っているのであり、長期的展望を共有している。